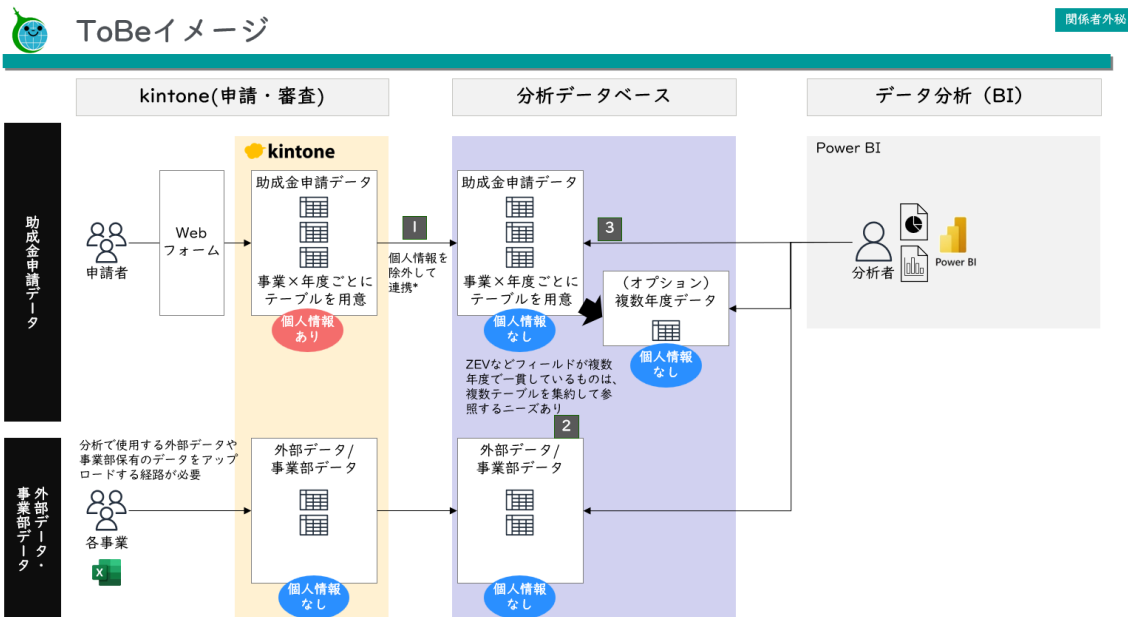


委託内容詳細

目次

1	ToBe システムイメージ	2
2	採用技術の指定について	2
3	現状把握・理解について	2
4	規模要件	3
4.1	テーブル数	3
4.2	フィールド数	4
4.3	データ量	4
4.4	集計処理数	4
5	機能要件/非機能要件	4
6	作業内容	4
6.1	事前準備	5
6.2	クラウド環境の調達及び初期構築	5
6.3	テーブルおよび連携処理・加工処理の構築	5
6.4	検証結果の報告について	6
7	成果物	6
7.1	要件定義	6
7.2	設計	6
7.3	結果報告	7
7.4	引継ぎ	7
8	進行管理	7
8.1	作業計画の提示	7
8.2	マイルストーン	7
8.3	委託期間中の進行管理	8

1 ToBe システムイメージ



2 採用技術の指定について

委託者の使用製品を前提に親和性の高いシステム構成を提案すること。

以下、委託者の使用製品を提示する。

- ・ (ア) Microsoft Power BI
- ・ (イ) Microsoft Power Automate Desktop
- ・ (ウ) kintone

3 現状把握・理解について

委託者の事業概要およびデータ分析に関わる状況について現状把握・理解を行うこと。

- ・ (ア) 受託者は、公社から貸与する資料等及び担当者からの説明等に基づき、表1「助成金申請データに関連する事項」の内容について把握・理解すること。
- ・ (イ) 上記(ア)項の説明は、公社の指示により対面又はオンラインによるものとし、日時や実施要領等は別途調整するものとする。
- ・ (ウ) 上記(ア)項は、契約締結から1か月後までに完了させること。

表 1 助成金申請データに関連する事項

No	項目	内容
1	委託者事業及び助成金の概要	委託者事業の全体像
2		助成金の基本コンセプト
3		太陽光事業
4		ZEV 事業
5		委託者における電子申請化の歴史
6	委託者事業特有の申請データ	委託者における申請データの取扱いに関するルール
7	取扱い等に関する背景・ルール	アプリ改修が高頻度で行われることによる影響内容とその影響範囲に対する理解
8	kintone の仕様・制約等	kintone の使用方法
9		kintone サービスの特徴・製品制約
10		API 連携の仕様
11		kintone アプリ内のデータ状態（太陽光）
12		kintone アプリ内のデータ状態（ZEV）
13	委託者内部での活動内容共有	太陽光事業
14		ZEV 事業
15	事前基礎調査の共有	調査報告書
16		申請データ一覧、データ保持形式

4 規模要件

4.1 テーブル数

下記データを収めるテーブルを構築すること。

実データにおいて個人情報を含まない。

- ・アドレス・ベース・レジストリ（マスターデータ）
- ・断熱太陽光（実データ）
- ・ZEV 令和5年度（実データ）
- ・ZEV 令和6年度（実データ）

4.2 フィールド数

当該アプリの必要なフィールド数を提示する。

- ・ アドレス・ベース・レジストリ：52
- ・ 断熱太陽光：319
- ・ ZEV 令和5年度：313
- ・ ZEV 令和6年度：313

4.3 データ量

当該アプリに格納されているデータ量（レコード数）について提示する。

- ・ アドレス・ベース・レジストリ：約 6,500
- ・ 断熱太陽光：約 29,000
- ・ ZEV 令和5年度：約 16,000
- ・ ZEV 令和6年度：約 12,000

4.4 集計処理数

必要な集計処理の種類について提示する。

- ・ ZEV の令和5年度及び令和6年度のデータをマージすること
- ・ 断熱太陽光及び ZEV の地域別集計など
- ・ その他、必要に応じて検証する集計処理を協議すること

5 機能要件/非機能要件

- ・ 機能要件及び非機能要件を別紙2「機能要件・非機能要件」に示す。
- ・ 提案及び要件定義の際に取り決めた内容に準ずること。

6 作業内容

構築したデータベースにおいて、必要な検証を受託者が提案し、効果検証を実施した後、その結果をまとめたレポートを作成すること。

6.1 事前準備

- リソースの選定
 - 案件に見合う規模、性能を満たす内容での必要な構成を提案すること。
- 調達プロセス
 - 調達プロセスを提示し、委託者が実施すべき事項を明示すること。

6.2 クラウド環境の調達及び初期構築

- クラウド環境調達後の初期構築
 - 環境調達後の初期構築を受託者にて実施すること。
 - 委託者が実施すべき事項があれば明示すること。

6.3 テーブルおよび連携処理・加工処理の構築

- テーブル
 - 委託者が提示する kintone のテーブル設計情報をもとに、適切なテーブル設計・作成を実施すること。
- 連携処理・加工処理
 - kintone が提供する REST API をもちいて kintone 内のテーブルからデータを抽出すること。
 - API 呼出しに必要な API アクセスキーは委託者より提供する。

6.4 検証結果の報告について

検証の結果をまとめたレポートを作成すること。

報告の際は以下内容を盛り込むこと。

- 実施概要
 - 検証の背景・目的
 - 検証観点
 - システム構成
 - 検証スケジュール
- 検証結果
 - 検証結果の要約
 - 検証結果の分析と考察
- 本番導入に向けて
 - 本番導入時の推奨構成
 - 本番導入に向けた課題、論点

7 成果物

7.1 要件定義

- システム構成図 1 部
 - 効果検証で作成する環境のシステム構成を定義したもの。
- 要件定義書 1 部
 - システム要件を定義したもの。
- 検証項目 1 部
 - 本検証において実施する検証内容を定めたもの。
 - 検証着手時に委託者と読合せを実施すること。

7.2 設計

- テーブル設計書 1 部
 - 検証で作成したテーブルのテーブル定義内容を記述したもの。
 - フォーマットは受託者で定義すること。

7.3 結果報告

- 検証結果報告書 1 部
 - 上記「6.4 検証結果の報告について」の項で定義した検証結果をまとめたもの。

7.4 引継ぎ

- 引継ぎ資料 1 部
 - 検証終了後も委託者にて環境を継続利用するため、以下内容を引継ぎ資料として作成する。
 - 環境アクセス手順
 - 連携対象テーブルの追加、変更時の対応手順

8 進行管理

8.1 作業計画の提示

- 受託者は進行管理表を作成し委託者に対して作業計画を提示すること。
- 進行管理表は全体のスケジュールや期限などがわかるよう記述すること。
- 受託者は環境構築や開発など各作業の順序性や前後関係について委託者にたいして説明を実施すること。
- 作業計画策定にあたって次項で定義するマイルストーンを遵守すること。

8.2 マイルストーン

本委託におけるマイルストーンを以下に示す。

- 中間報告
 - 実施時期
2026/1/19 週 ~ 2026/2/9 週の中で計画すること。
 - 目的

今後の活動内容を整理し、次年度の分析基盤（データベース）構築支援に関する参考材料とする。

- 最終報告
 - 実施時期
2026/3/16 週の中で計画すること。
 - 目的
検証内容の最終報告。検証内容を取りまとめ実現性や課題について報告。

8.3 委託期間中の進行管理

- 受託者は進行管理表を用いて本委託全体の進行管理を実施する。
- 受託者は週次で対面もしくはオンラインにて委託者にたいして進行状況を報告すること。
- 計画の見直しが必要になった際はすみやかに進行管理表の修正を行い、委託者に対して説明を実施すること。